
賢者の贈り物 1

遠美 見

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

賢者の贈り物 1

【コード】

N0589J

【作者名】

遠美 見

【あらすじ】

戦争が終わって8年たった同盟のお話です。

16歳(前書き)

キャゼルヌ一家のクリスマスのお話です

16歳

クリスマスまであと一週間という日、娘のシャルロットが話しかけてきた。

「パパ、ちょっとお願いがあるんだけど・・・」

16歳になっても変わらないこの前置きの言葉は、何か欲しいものがあるときのものだ。

「なんだ、クリスマスプレゼントのおねだりか？」

まったくいつまでも子供だな・・・というからかいを含ませた俺の言葉に、シャルロットは笑う。

「・・・できれば少し早く欲しいんだけど・・・いい？」

「なにが欲しいんだ？」

「この前友達と出かけたとき、とつても可愛いコート見つけたの！！
クリスマスパーティーに着て行きたいの、だからお願い！！
パパ」

クリスマスパーティーか・・・家族とすごすクリスマスを卒業して、
気の合う友達とパーティーをするのが楽しい時期が人生には確実にあ
る。自分にも、もちろんあった。少し淋しい気もするが、大きくな
ったんだと喜びたくもある。

「OK！！ 日曜に買いに行こう」

「ありがとう 大好きよ、パパ」

シャルロット、おまえはさらりと口にするが、その言葉にはけっ
こつ破壊力があるんだゾ。

そんなふうになら誰かに「大好き」と言うようになるのかと思
うとさ・・・俺はフウ、とため息を吐いた。

今日はクリスマスイブ

女たちは朝から準備に余念がない。俺は・・・というところまで
非番で、かといって手伝う隙もないので、書斎でコーヒーと新聞を
お友達にばおっとしていたりする。

気まぐれにリビングに行くと、必ず誰か訪問者がいる。

我が家は人の出入りが多い。それはうちの嫁が若い士官の妻たち
の相談役のようなことをしているせいだ。

最初はたわいないお茶会のようなものだったが、しだいに料
理教室のようになり、そのうちに打ち解けた雰囲気の中で夫のぐち
を語りだす若い妻たちの相談に乗るようになった。

実際に離婚寸前の危機を救われたカップルが両手の指では足りないほどいるらしい・・・（反対に、別れるように諭されて離婚した夫婦もいるという恐ろしいうわさも聞いたのだが・・・）

我が嫁ながらこわ・・・いやいや・・・よくやっているとと思うよ（汗）

オルタンスは自分の家の仕度を忙しくしながら、若い妻たちに料理のレシピやコツを教えてやっている。シャルロットはケーキのデコレーションをしている。ロザリーは母や姉を手伝う傍ら、つれてこられたおチビさんたちの相手をしている。

いやはや、戦場に舞い戻ったようだよ・・・。

俺は熱気にあてられて、書斎に退散しようと腰を上げた。そのとき、

「あら、シャルロット。あなたそろそろ出かける時間じゃないの？」

という嫁の聲がした。

「え！！ もうこんな時間？」

という娘の声を聞きながら書斎に戻り、窓の下を眺めていると、買ってやったばかりのコートを着て大きなケーキの箱を抱えて飛び出していくシャルロットが見えた。

つづく

16歳(後書き)

ユリアンとカリンも出ます。

心配性？

家族が全員そろわないクリスマスは考えてみたら初めてのことで、軍人としては、俺は贅沢者の部類に入るんだろうな。

今日の夕食にはユリアンとカリン夫婦に二人の間に生まれた一粒種のローザラインが訪れることになっている。ローザラインは2つ。シャルロットのいない物足りなさを十分に埋めてくれることだろうと、その年頃の娘たちの様子を思い返して俺は思い出し笑いを漏らした。

案の定、その期待は裏切られることがなく、勤務を終えてやってきた若い二人と11歳と2歳の子供たちに嫁が腕によりをかけた料理の数々、サラダだけは得意だというカリンの作ったグリーンサラダ、シャルロットが出かける前に作っていった、クリスマス飾りでいっぱいのでコレーションケーキはきれいに食べられて、笑顔に変わった。

「クラスメイトとパーティ、ですか・・・大人になりましたねえ、シャルロットも」

リビングのソファでグラスを傾けながら、ユリアンが言った。

「なに、俺に言わせればまだまだ子供さ・・・パパア、クリスマスパーティーに着て行くコート買ってえく、なんて言ってるさ」

俺はシャルロットの口調を真似て言った。その様子にユリアンはおかしそうに笑った。

「フッフ・・・誰か見せたい人がいるんじゃないんですか？」

「・・・・・・・・ああ？」

「例えば、彼氏・・・とか」

ぶほっ！！ 俺は思いつきりウイスキーを嘔いてしまった。

彼氏だあ？

たかだかハイ・スクールに入ったばかりのがきんちよのくせに、
ウチの娘をたぶらかそうたあなんてやつだ！！

「まだ早いさ、そんなの・・・」

「カリンが僕と付き合いだしたの、17のときですよ」

「うわあああ！！」

反射的に時計をみる。9時を回ったところだった。

とつとと帰ってこい……。10時すぎたら説教してやる！！
ちくしょう・・・・・・・・・・

クリスマスにとっておいた上等のウイスキーの味がまったくわからなくなった。

まったく！！

おなががいっぱいになったのと存分に遊んでもらったので、ロザラインは早々と夢の中に入ってしまった。

「このままうちに寝かせておいたらいいわ。たまには2人だけでデートしていらっしやい、せっかくのイブなんだから」

オルタンスのすすめに、ユリアンとカリンは恐縮しながらも楽しそうに夜の町へ出て行った。車に積んであったクリスマスプレゼントを託して……。

ロザリーと一緒に寝たいというので、ロザリーのベッドにローザラインを運んで寝かせてやる。ほどなくロザリーも眠りにつき、俺はリビングに戻った。

あとで枕元にプレゼントを置いてやらなくてはなあ。

そう思いながら時計を見ると、あと10分で10時になるところ

で……。

「シャルロットはまだ帰らないのか!！」

俺はいらいらとりビングを歩き回った。オルタンスは全然心配している様子がない。母親ならもっと心配したらどうなんだ!！」と八つ当たりしたくなる。

「あなた、少し落ち着いてくださいな。みんなと一緒になんだし、そんなに心配しなくても……」

「若い娘がこんなに遅くまで出歩くなんて、けしからん!! 門限は9時半だろうが。クリスマスパーティーだから10時までは大目に見ようかと思ってたが、全然連絡もないし、帰って来る気配もないじゃないか!！」

「大丈夫ですよ。あの子にかぎって間違いを犯すようなことはありませんと」

「まっまっ……まちがっ……」

「生理が始まったときにきちんとセックスについて教えてありま
すし」

「セッ……セッ……」

「避妊のしかたも教えたし」

「……ひひひ……ひに……」

「中絶のリスクも……」

「やめてくれえええ!!」

あまりにも生々しい話に俺は頭を抱えた。

「もーいい！！ もう帰って来るだろうからその辺まで迎えに行
ってくる」

俺はオーバーをひっ掴んで家を飛び出した。

温

まったく！！ あいつときたらデリカシーとかそういう類のものをまったく持ち合わせていないのだから！！

思えば若いときからそうだった。結婚前に「世界の中心で愛を叫ぶ」というこっぴどくかしいタイトルの映画に無理をして誘ってみたというのに、あいつときたらタイトルを見たたん「そんなことさそれなら全速力で逃げる」と言い放った……。そこに惚れた俺も俺だけどな！！

はあああああ……。とため息をつくとき、真冬の夜風が身にしみた。

ステーションに行く道を歩いているとき、向こうからシャルロットが来るのが見えた。

「シャルロット！！」

「あら？ パパ、どうしたの？」

「遅いから心配で駅まで行くところだった」

「ゴメンナサイ・・・」

シャルロットは首をすくめた。その様子に俺はけっこう安心したんだ。

「こつやってみんな少しずつ親から離れていくんだ。少し淋しいけど・・・」

家に戻るとオルタンスはホットウィスキーを作ってくれて、体が温まると同時にやっと心から酒の味を楽しむことができた。

シャルロットはココアを飲みながら今日のパーティのことを母親に話している。こついつとこるはまだまだ子供だ。

いい気分でそんなことを考えながらベッドに入ろうとした俺は、ロザリーとローザラインの枕元にプレゼントを置くという重大な使命をすっかり忘れていたことに気が付き、あわてて足音を忍ばせて子供部屋に向かったのだった。

END E

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0589j/>

賢者の贈り物 1

2010年10月10日03時18分発行